

取組概要

取組名 【取組 NO】	入院患者の嚥下機能評価支援【23M6-8】
RX 区分	医療 RX
部署名等	<p>上原キャンパス事務部 医事課 情報管理係 主任（上原達也） 医療の質・安全管理部（西平淳子 先生） リハビリテーション部（名嘉太郎 先生） 歯科口腔外科（井手健太郎 先生） 安全管理対策室（吉永成子 副看護部長） 摂食認定看護師（下地あずさ、神村美奈子） 管理栄養士（仲嵩緑） 医事課（上原英敬 係長、佐久真亮 係長）</p>
概 要	<p>日本全国で4,000件余りの窒息死亡事例が報告されており、75歳以上の年齢が約7割を占めている。</p> <p>当院入院患者においても、過去4年の間に8例の窒息症例が報告され、その中には死亡の転機を辿った症例も報告されており、入院患者も年々高齢化しているのが現状である。</p> <p>2022年3月、我々は要因を検討し、対策を立案するグループを立ち上げ、窒息インシデントは生命にかかわる重要な問題であるという事を強く認識し、専門分野を持つ有志にて「オーラルフレイル食*に関するWG」を結成し、オーラルフレイル食の整備や嚥下機能評価の標準化を行った。</p> <p>しかし、入院患者への食事提供状況や嚥下機能評価の有無、リスク判定等を評価するには、電子カルテシステムや部門管理システム、Excel等の様々な情報から拾い上げていく事が必要であり、現状把握が困難な状況であった。これら、データは全て手作業で行っており、多くの時間と労力を要し、本活動に取り組む前の大きな障壁となっていた。</p> <p>そこで、嚥下機能評価の指針を標準化し、多職種で共通化するためテンプレートシステムを作成した。そして、電子カルテの膨大なデータをDWHに集約して、様々なデータを【BIツール（Qlikview）】で可視化する事により、従来の集計作業から解放され、短時間で誰でも容易に評価・分析を行えるようになった。</p> <p>本データを活用する事で、病棟や診療科毎の食事提供状況、嚥下評価の有無、食形態の適否等の情報が一元管理され、評価・分析が可能となり、医師や医療従事者への情報提供、各会議や委員会等で教育、周知を行うことができた。現在も高齢患者の窒息の未然防止に向け取り組んでおり、チーム一丸となって医療の質を向上し、安心安全を患者に届けていきたいと考えている。</p> <p>※「オーラルフレイルとは、 “老化に伴う口腔状態変化による脆弱性の増加”を意味する。」</p>

	<p><QlikView+QlikViewAccessPonint2 (QlikTec 社) > 開発アプリ一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ①入院患者の嚥下機能評価支援 ②嚥下評価モニタリング ③NST 神村管理システム <p><テンプレートシステム (MKS 社) ></p> <ul style="list-style-type: none"> ①嚥下機能評価質問票 (スクリーニング・フォローアップ用) <p><電子カルテシステム MegaOak HR (NEC 社) ></p> <ul style="list-style-type: none"> ①食事オーダ機能の機能改修
作業期間	約 1 年間 (2022 年 3 月～2023 年 3 月)
実施効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>多職種連携で各担当が様々な役割を分担して達成、課題解決できたこと。</u> ・ 集計作業の業務を軽減できた。 ・ QOL 改善へのアプローチ。 ・ 医療事故防止対策。
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「2022 年第 24 回日本マネジメント学会総会」ポスター発表 ・ 「2023 年 QI モニタリング (臨床指標)」登録 ・ 「2023 年院内 QC サークル発表会 (ストップちーちーかーか)」2 位受賞 ・ 「2023 年 QC サークル全国大会激励賞受賞」 ・ 「患者安全推進ジャーナル (2022 年 No.70)」掲載 ・ 「2024 年 大学病院情報マネジメント部門連絡会議」ポスターセッション発表(予定)